

平成三十年度卒業式式辞

今年は雪の少なかった冬にも関わらず、この地はやはり厳しい寒さが続きましたが、少しずつ日も長くなり日差しには春の気配が感じられ、キャンパスにも花や緑から春の息吹がもたらされています。

本日、ここに岐阜県立国際園芸アカデミーを卒業していく十九名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ご列席の保護者の方々にも、心よりお祝いを申しあげます。

また、このたびはご多忙にも関わらず、岐阜県議会の野島征夫副議長はじめ議員の皆様、そして多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、ここに岐阜県立国際園芸アカデミー卒業式を挙行できますことは、誠に大きな喜びでございます。

皆様方には平素から本校の教育運営に多大なご理解とご協力、ご支援を賜っておりますことに、この場をお借りしまして改めて厚く御礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さんは2年前に花と緑の知識と技能を身に付けるべく、大きな志を胸に抱いて本校に入学してこられました。今、今日のこのよき日を迎えるにあたって、このキャンパスで過ごした楽しかったこと、辛かったことなど様々な思い出がめぐってくるものと思います。

ともに学んだ友人、花と緑があふれ自然の中にあるキャンパスで過ごした時間などは、お互いの人生にとってかけがいのないものです。そのかけがいのない経験や人と人とのつながりがこれからの人生にとって大切な糧になることを願っています。

卒業生の皆さんがこれから進む園芸・造園緑化においては、土を作り、種を播き、水や肥料をやることによって、花が咲き緑も育ち、その花や緑を使って人々に感動を与える技術を施し、求められるニーズに対応できる製品や施設に整えていきます。

土も種も水も肥料もそれだけでは、『資源』のままです。資源を『資産』に換えていくために必要なデザインワークともいうべき能力、技能、技術をさらに身に付けて磨いていくことが求められています。その基礎となるべきものは国際園芸アカデミーでの2年間できっかけは与えられましたので、一つ一つを追求していただく下さい。

さて、みなさんに質問です。

自分で花屋で買った花と、誰かからプレゼントされた花のどちらがうれしいですか？当然、人からもらった方がうれしいですね。実は、人の本質はすべてここに表れています。

私たちが『持たない力』とは、自分で自分を幸せにする力です。自分で自分にバラを買ったり、自分で自分にやさしい言葉をかけたりしてもあまり心には響きません。しかし人からもらった気持ちやプレゼントは心にガツンと響きます。

つまり、人が『持っている力』とは、自分を幸せにする力ではなく、『他人を幸せにする力』なのです。私たちは、自分で自分を幸せにする力は与えられていませんが、人を幸せにする力は与えられているのです。ですから、自分で自分にバラを買うよりも、お互いにバラを買ってプレゼントし合うことこそが、私たちがすべきことであり、自分が幸せになるためではなく、相手を幸せにするために努力するんだ！とお互いにそう思うことが大切だと思います。

ここに卒業を迎えられる皆さんは、一人ひとりが人を幸せにする大きな仕事ができる可能性を秘めた世の中の『財産』となっています。そんな潜在的な能力を最大限に発揮できるかどうかは、皆さん自身がしっかりとしたこの先の目的意識を持ち続けることにかかっています。これから現場での仕事を通じて自らを高め、常に現状に満足することなく、国際園芸アカデミーで学んだことを誇りとし、自分の能力と感性を信じてまい進してくれることを心より願っています。

最後にあたり、ここにめでたく皆さんが卒業を迎えることができるのは、日ごろの努力の賜物であるのももちろんですが、周りで支えていただけたご家族や関係者、教職員のお陰でもあることも伝えておきたいと思います。その感謝の気持ちを岩に刻む思いでその恩に報いることが、これからの人生において社会に還元していくことになりません。そのことをくれぐれも忘れないようお願いします。

以上、皆さんの将来に幸多きことを祈って、はなむけの言葉とします。

平成三十一年三月五日